

を、忘れがちではないでしょうか。

お念仏の人生とは、阿弥陀仏の智慧と慈悲とに照らされ包まれ、いのちのあるものが、敬い合い支えあつて、往生浄土の道を歩むことであります。」

と。ご門主が「仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物・非生物は密接につながりをもって「います」とおっしゃるように、人間は決して自分ひとりでは生きられません。私をとりまく、いのちのあるもの、いのちのないもの、すべてのもののおかげ、ささえをいただいで、生きてゐるのではなく、おかげで生かされているのです。この生かされていると云う受け身の喜びが身に即く人が、本当の仏教徒であるということでしょう。藤原国彦さんが『国家の品格』という本を書いてベストセ



去る6月29日に行われた安芸南組（54か寺）で行われた750回大遠忌御消息（ご門主のお手紙）披露（於明法寺）。

法要後「話し合い」の時間に編集者が質問。近年、ご本山の基幹運動、特に「同朋運動（差別に取り組む）」で「忌（いむ）」という言葉が問題であるとされています。しかし今回の法要の名称「大遠忌」には「忌」が使用してあります。ご本山はこれをどういう意味で使用されているのか、質問しました。残念ながら今回も（詳細は寺報98号3頁参照）回答はありませんでした。みなさんは、どう思われますか？

ラーになつていますが、今の日本は、あまりに品格がなさ過ぎると云うのです。品格がないということは、この國に、「自己をかえりみる人が少ない」、ということでしょう。皆さんも実感されるでしょう。決して私ひとり超然とするわけではありませんが、「仏教徒として、おかげを知る謙虚な生き方をした

いものだ」との、前向きな思いを忘れてはならないと思います。ところで、ライブドアに始まる経済界の品のなさは、村上ファンドから、遂に福井日銀総裁の出处進退にまで及んでいます。「福井俊彦日銀総裁の村上ファンド投資問題、目をそむけなくなるリンチ殺人、保険金殺人、自宅放火殺人事件の数々、身代金誘拐事件（中略）福井問題は、格差社会拡大の断面でもある。金持ちによる、金持ちの

ための、金もうけに映るからだ。〔六月二十八日付〕中国新聞「天風録」

他人のフトコロを計算することは、それこそ下品の最たるものでしょうが、それにしても、なんとあの人は柄かねもちですね。ゼロ金利に困り、おまけに年金収入は増えないのに、今年からの増税に苦しむお年寄りの心痛は、とてもわからないのではないのでしょうかネ。

私は十数年前、この「西教寺報」で窪田空穂の「ただひとり われより貧しき友なりき 金のことにて 交り絶てり」

われの持てる 貧しきものの中に、彼に見い出た耐えがたかりきと云う二首の歌を紹介して、「もう今の日本では、貧乏で

困るといふような人は、なくなつたでしょう」云々と申しましたが、またぞろ貧富の両極化時代となりつつあるようですね。

目を外へ向けますと、世界中のどこかで、今日たたいま、殺し合いがつけられていまます。戦後西ドイツの最初の首相をつとめ、ドイツの復興に多大な功績を残した、コンラート・アデナウアー（1896-1967）さんが云いました。

神は人間の賢さに上限をもうけたもうた。しかし人間の愚かさには下限をもうけたまわなかつた。

と。なんと皮肉に富んだ、しかもユーモアのある言葉でしょう。か。いったいに西洋人は上品なユーモアのある表現が上手です。私はいつも感心しますが、これなどその最たるものでしょう。